	{好 嫌	気 気	性 性	+	+	-
5	{腔 細 白 好 嫌	内 血 気	容 菌 球 性 性	膿 + 卅 +	粘 - 卅 -	好 転 - + -
6	{腔 細 白 好 嫌	内 血 気	容 菌 球 性 性	(血性) 卅 卅 +	(血性) - 卅 -	

7	{腔 細 白 好 嫌	内 血 気	容 菌 球 性 性	膿 + 卅 +	好 転 - + -	
8	{腔 細 白 好 嫌	内 血 気	容 菌 球 性 性	灰白 + + +	好 転 - - -	

外傷性鼻腔異物(木箸)の一例

東京都立大塚病院

医 長 内 藤 寛

Hiroshi Naitō

杉 山 伊 勢 子

Iseko Sugiyama

緒 言

外傷性鼻腔異物の症例は敢て珍らしいと云う程のものではないが、今迄に発表されたものは青壮年男子の作業中或は事故によるものか、或は幼少年に起つたものが多い。異物として箸と発表されているものは昭和5年東海林¹⁾の症例と昭和27年後藤²⁾の症例の二例を見るのみである。我々は最近壮年女子に見られた珍らしい一例に遭遇したので、ここに報告して御参考に供したいと思う。

症 例

患者：川上某。36才女子 初診昭和30年10月17日 病歴：昭和30年8月31日夜家庭内で4才になる末子が木箸を手につけてかけて来て、母親(患者)の顔面直前で倒れ、手に持っていた木箸を母親の右鼻翼頬部境界辺縁(写真1)につきさし、驚いて直ちに抜き取つたが先端が中に入り込んだまゝ折れて残つた。出血があり附近の外科医の応急救置を受けた。其後刺入創は一旦治癒したが10月初頃にその部分が再び腫脹したので外科医により切開を受けた。その切開創は瘻孔を残したまゝ、右鼻閉、悪臭鼻汁及び血性の後鼻漏を訴えて来診した。

来診時所見：右鼻翼頬部境界辺縁に小瘻孔があつて

第1図

粘液性分泌を認む。鼻腔検査では右下鼻甲介腫脹し下鼻道は血性粘液性膿汁で充滿、血性後鼻漏を認む。鼻洗をして鼻腔内をよく見たが異物らしいものは見当らず僅かに下鼻道側壁に肉芽のあるのを認めた。レ線写真によつてもその陰影が認められなかつた。耳、咽頭、口蓋にも何等の変化を認めなかつた。入院：昭和30年11月10日。入院時鼻腔所見前述の通り。直ちに「鼻腔の潜在性異物」として手術を行つた。

手術所見：ほぼデンケルン和辻の術式に従つて鼻唇粘膜切開を加え犬歯窩及び梨状縁を出したが該部に全然異常を認めず。梨状縁から鼻粘膜を剝離す。約1cm

第 2 図

位入った所で一部分が破れていたのそれに続いて少しく切開を加え更によく深部を見ると一部肉芽に包まれた異物端を認めたので之を少し引張り出し更に菊地鉗子を用いて一抛に引き抜く。出血を伴わなかった。取り出した異物は長さ約 8 cm の長大な黒塗りの木箸の折損端であつた。(写真 2) 下鼻通側壁に存在した肉芽を取り、顔面に認められた瘻孔を清掃して終る。

経過：術後然熱もなく鼻腔内も清浄となり顔面の瘻

孔も順調に閉鎖し、11 月 15 日（術後 5 日目）退院、11 月 19 日（術後 9 日目）に完全治癒す。

考 按

昭和以降文献に見られた外傷性鼻腔異物の症例は我々の調べた範囲内では第 1 表に示す通り 16 例で、異物の種類としては空気銃弾が 6 例、箸が 2 例、其他玩具（弓矢）の一部、竹片、小石、鉄片、挺の破片、機関砲弾、上顎前歯、錫鉛合金各 1 例となつている。侵入の動機としては誤射 5 例、交通其他の事故 4 例、転倒 3 例、作業中 2 例、其他遊戯中爆発、自然発射各 1 例となつている。本症例に関係ある箸の症例としては 昭和 5 年東海林¹⁾

が 3 才の男児で、象牙箸を右手に持つて置いて倒れ顔面の右鼻翼の上方に小創傷あり、レ線写真で鼻中隔から左顔窩に達する異物を発見し之を引き抜き良好に経過した一例と、昭和 27 年後藤²⁾が 1 年 9 ケ月の男児で、長さ 6 cm の木箸を右前鼻孔から頭蓋骨底に刺傷し異物は取り出したが頭蓋内合併症を併発した一例とである。

年令的に見ると最高 40 才から 15 才に至る青壮年

第 1 表 今迄に発表された外傷性鼻腔異物

番号	発表年	著 者	患 者	異 物 の 種 類	侵 入 の 動 機	滞留期間
1	2 年	一 井	5 才 男	玩具（弓矢）の一部（木製 表面黒色塗）	遊戯中転倒	
2	5 年	東 海 林	3 才 男	象牙箸	右手に持ちつまづき倒れる	
3	7 年	山 中	35 才 男	竹片（長さ 4 cm 直径 1.5 cm）	自転車から墜落藪の中に顔 をつっこむ	
4	10 年	児 玉	40 才 男	小石（3 ケ）	5 間の高所から河中に墜落	
5	13 年	山 田	11 才 男	空気銃弾（鋤骨留弾）	誤射	
6	14 年	天 津	16 才 男	鉄片	作業中	約 1 年
7	14 年	松 田	12 才 女	空気銃弾破片	誤射	
8	16 年	吉 田	15 才 男	空気銃弾	誤射	
9	19 年	阿 久 根	37 才 男	挺の破片	「トラック」操縦中転覆	2 週
10	25 年	仲 村	8 才 男	空気銃弾（鼻中隔留弾）	1.5 m 前方から誤射	6 日
11	26 年	加藤外 2 名	3 才 男	空気銃弾（下鼻道側壁深部）	5~6 m から自然発射	
12	27 年	角田外 1 名	9 才 女	上顎前歯 十	自転車衝突	
13	27 年	坂口外 1 名	22 才 男	錫鉛合金（大小 8 ケ）	ホワイト合金加熱溶解作業 中	9 日
14	27 年	後 藤	1 年 9 月男	木箸	右前鼻孔から刺傷	19 日
15	27 年	佐藤外 1 名	19 才 男	機関砲弾	遊戯中爆発	7 年
16	30 年	牟 田	7 年 8 月男	空気銃弾（鼻中隔留弾）	約 4 m から誤射	

が 7 例と、12 才から 1 年 9 ヶ月に至る幼少年の 9 例で、青壮年 7 例のうち 2 例を除いては全部が交通其他の事故或は作業中に起つたのに反し、幼少年 9 例のうち 8 例は転倒或は誤射によつて起つている。男女別では男 14 例、女 2 例で圧倒的に男が多い。

扱て本症例について考按するに 36 才の女子であることは注目すべきことで、異物侵入の動機として自分の子供が箸を手に持つて母親（患者）の顔前で転倒、介達性外傷によつて起つたものであると云うことと共に文献上例を見ない珍しい症例の一つである。異物はかなりの外力を以て右鼻翼頬部境界辺縁で皮膚を破り梨状縁を通つて右下鼻甲介前端附着部附近を僅かに損傷したのみで粘膜を破ることなく鼻腔底粘膜下を斜に口蓋骨に沿つて奥深く侵入し切損したもので、鼻腔検査では全然発見し得ず、木箸であるためにレ線写真でも認められず「潜在性鼻腔異物」として手術を行わざるを得なかつたものと思われる。異物の滞留期間が 71 日間に及んだのは佐藤等³⁾、天津⁴⁾の症例の夫々気付かないための 7 年間或は約 1 年間に続いて長い部類に属する患者が手術を恐れたのと家婦であるための家庭上の事情によるもので余り意味を認めない。

結 語

36 才女子に見られた外傷性鼻腔異物（木箸）の一例を報告し、併せて昭和以降の文献にあらわれた外傷性鼻腔異物の統計的観察を試みた。而して本症例の特異の点として

- 1) 患者が壮年女子であること。
- 2) 異物侵入の動機として箸を持つた自分の子供が顔前で転倒したための介達性外傷によつて起つたものであること。
- 3) 異物が鼻腔底粘膜下にかくれて鼻腔検査、レ線検査で発見されず「潜在性鼻腔異物」として手術を行わざるを得なかつたこと。
- 4) 患者の意志、家庭の事情等に支配されたが異物の滞留期間が 71 日間にも及んだこと。

等を挙げる事が出来る。

文 献

- 1) 東海林重信：日耳鼻会報，**36** (3)，(昭5)
- 2) 後藤孝彦：耳鼻咽喉，**24** (11)，(昭27)
- 3) 佐藤寛外：耳鼻咽喉，**24** (12)，(昭27)
- 4) 天津修三：耳鼻咽喉，**12** (8)，(昭14)
- 5) 日本耳鼻咽喉科全書，**2**，3 冊 (昭29)

就学児童検診に於ける口腔内所見の統計的観察

日本医科大学小児科学教室（飯田町）（主任 村上勝美教授）

久 保 木 英 子

Hideko Kuboki

緒 言

昭和 32 年 2 月、川崎市小田地区に於て、今年度の就学児童 254 例を対象として、口腔内所見について調査したのでその結果を報告する。

小田町は川崎市の南部に位置し、南部は重工業地帯で、北部は勤労者の住宅地帯に占められ、人口の緻密な町である。その住民には肉體労働者が多く、其他としては中小企業経営者並びに勤務者があるが、生活程度は一般に中等度乃至それ以下のものが多い。

調査成績

調査の対象とした小児は、6 年 1 ヶ月～6 年 11 ヶ月の男女 254 例である。検診の結果、以上のうち 9 例

は正常で、245 例に異常所見をみた。異常所見の分類、並びに成績は第 1 表に示した如くである。次にこれを各部位の変化について述べる。

1. 歯牙に於ける所見

齲歯罹患率は 245 例で、全体の 96.4%に相当する。これら小児の保有歯数は 5,550 本で、うち 1,870 本に齲歯が認められ、齲歯率は 0.34 となり、一人平均齲歯保有数は 7.5 本であつた。これを上、下顎歯数において比較すると、上顎歯 1,064 本、下顎歯 806 本で、上顎歯に 56.7%、下顎歯に 43.3%となり下顎歯に比して上顎歯に齲歯が稍々多く認められた。次に齲蝕症を病変の深度に依つて比較すると、齲蝕症Ⅰ度